

## 第4回新宿区文化芸術振興会議（第5期）議事要旨

■開催日時 令和元年12月10日 午前10時から午前12時00分まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 星山晋也 松井千輝 松島貴美子 的場美規子 大野順二  
中島隆太 大和滋 (欠席 垣内恵美子 岡室美奈子 舟橋香樹)

\*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 菅野文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 加藤

■議事の進行

### 1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

### 2 議事（要旨）

- (1) 前回会議の内容について  
資料1に基づき、前回会議（令和元年7月9日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 調査審議事項  
資料2、資料3に基づき、専門部会委員の大和委員が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。
- (3) 意見交換

【以下、意見交換】

- ・資料3の連携の課題について、新宿区は多彩な施設があり、連携方法が定まらない、連携が困難とかということが幾つか書かれている。課題を考えるに当たり、専門部会でも、各施設が連携だけではなく情報発信に具体的にどう取り組んでいるかについて全然把握できていないため、調査が必要ということになった。
- ・連携については、個別には、やっているところは結構多いという感じがしないでもなく、これをいかに共有して広げていくか。
- ・広報については、ウェブとチラシ程度はほとんどやっている感じ。SNSは、やっているけれども、取り組んでみたいという意向も結構あるという感じ。
- ・全体でSNSを使って共有していく方法も、フィールドミュージアムで発信していくとか、そういう具体的な展開も今後考えられるのかと思う。
- ・連携では、連携する分野のこの考え方がかなり整備されてきたので、これを順序立てて進めていくような各フィールドミュージアム会員からの、何か具体的な動きをつくるようなことができてくると、かなり活性化してくるのではないか。
- ・資料2で新宿観光振興協会サイトと区の観光資源情報検索システムが今回紹介された。

文化的な活動の中心である新宿フィールドミュージアムと、観光振興協会のサイトの連携で、情報関係がうまくつながっていくと、いい発展につながっていくのではないかと。

- ・資料にあるように、課題が幾つか、議論が進まないということと、何らかの取組みが必要ということがある。具体的に、フィールドミュージアム内でどういうことができるかというような、考えるための整理があってもいいという気がした。

- ・手前どもの施設は、5月28日一般オープンで、オリンピック期間中は開館する。10月6日からはゴッホ展を開催する。これが、オリンピック・パラリンピックが終わった後だが、来年の大きなイベント。

- ・新宿駅エリアの再開発計画が承認され、多分10年ぐらいの計画の中で大きく変わり、まさに新宿区の中心のターミナル駅になってくる。そういうところと将来的にこういうものが新宿駅を中心とした1つの企画ということになると、つなげていくという意味では、新宿駅の情報を参考資料として会議に提供していただいてもいい。

- ・多分、人の流れが大きく変わるはずで、情報発信の整備も、1年、2年で全てができるわけではなく、5年、10年計画ということになる。新宿区は大きなエリアで分かれているが、1つの核となる新宿駅周辺エリアとの連携ということも視野に入れたほうがいい。

- ・文化センターに年間チラシやパンフレットがないことを知り、少し驚いている。年間パンフレットは、ぜひつくっていただきたい。

- ・「2020NIPPONフェスティバル」が来年6月に行われ、ベルリン・フィルが新宿御苑で無料の野外コンサートをやり、1万人ほど呼ぼうとしている。舞台は特設だと思うが、できれば、その舞台で持続的に何かやっていければと思う

- ・ベルリン・フィルがヴァルトビューネと、森の中で演奏会を1年に1回だけやる。ステージは作ってあるので、毎年行える。日本は大変雨が多いので、なかなか野外コンサートはできないが、今度、池袋に芸術劇場の前にできる。新宿区にも何か欲しいと強く思う。

- ・課題として考えていけないことはないかも。上野の不忍池の水上音楽堂。あそこは区なのかな。

- ・日比谷野外音楽堂もある。

- ・野外だと、住友ビルのアトリウムが来年完成する。区の施設ではなくても、官民連携でああいうところを利用していく。

- ・資料2の協力者のインフルエンサー、立っている人、大学というのは、以前からの案で、一向に具体的な名前が挙がってこないのが、少し残念。やはり具体性がないと前進しないままオリンピックを迎えてしまうのかという危機感を少し持っている。

- ・手っ取り早い協力であれば、例えば吉住区長が、ご自身でSNSを発信している。あと、区長が区内スポットを回るJ-COMの番組があり、自身で体験する企画もあるので、何かコラボをして、いろいろな施設とイベントを組んで企画を考えてもよい。

- ・夏に、区長が『四谷怪談』を取り上げて、四谷のまち歩きガイドの方が四谷地区の説明をされ、区長が子ども向けに『耳なし芳一』の話をするというプログラムがあった。そういったものと、区の施設、何かを関連させれば、よりおもしろいものができると思う。

・活用のところで取り上げられているが、アニメという豊島区のイメージが強く、漫画文化やサブカルチャーの聖地というのは、少しかわかないと思う。『君の名は』みたいな新宿を取り上げているものがあるのはいいが、それはただイベントに乗っかるだけで少し疑問な点もある。かといって、池袋のように、コスプレのパレードとかアニメソングのイベントがあったとしても二番煎じになるし、新宿区としてどうアニメを活用するのかということも、疑問に感じるところもある。

・資料3の連携の部分で、18日からの『響～小説家になる方法～』も、区内4つの記念館でスタンプラリーという企画があり、すごくいいと思うし、若者が来るきっかけになると思う。今年も、漱石山房記念館で、熊本城をイメージした竹あかりが設置され、人がたくさん来るといいと思う。

・連携の要になる人材として学芸員が取り上げられた。学芸員をクローズアップするような企画もいいと思う。例えば「新宿plus」や「広報しんじゅく」でもいいが、学芸員が何か勧めるみたいな。うちの館のここがすごいとか、この企画のこういうものがすごいから来てくださいみたいな。そういう発信をするのが1つの手かと思う。例えば交流がなかった学芸員同士で、この館にはこういう方がいて、こういうことに興味があり、この館はこういう特徴があって、こういうことをおもしろいと思っているみたいな。何か学芸員同士のつながりや交流のきっかけになるかと思い、そういう点から新たに発信するのも1つの手かなと思った。

・施設の回遊に関して、スポットを巡るコースを設定することと、分野だけではなくて広場でつなげるとある。新宿のWEバスもあるが、そのコースだと、その目的は果たしていないと思う。池袋では小型電気バスが、再開発が進む公園同士を巡り、赤いバスが何台か走り、うち1台だけ黄色いバスを走らせ「見られたら幸運」という面白い仕掛けもある。そういう感じで、WEバスも、文化・芸術に関するところや施設を回るだけのようなバスという、そういう巡るコースがあってもいいかと思う。

・特に漱石山房記念館や近くの草間彌生美術館、そこを訪れる方がやはり圧倒的に多いと思うので、そこを通過して、他の文化芸術に関する施設を通るようなバスを走らせるようなコース設定を考えてもいいと思う。

・連携は美術館同士とか、施設同士、プラス交流、一体どう行ったらいいのかわかりにくいところをうまくつなげる。そういうさまざまな分野をうまく、連携して回らせるということがあると思う。

・学芸員を中心に、というのもいいアイデアで。同じような分野ではなくて、異分野のものもということがある。歴史博物館で、おもしろい展覧会をいろいろやっている。あれは学芸員を中心にやっている。他の文学館や林芙美子とか、それぞれいろいろなことを持ち寄って。特に、学芸員が連携のプロデューサー役をする。

・学芸員の集まりみたいなものがあり、歴史的なこと、それから文学や、音楽とのかかわり、いっぱいある。音楽と文化財という連携をプロデュースする。あるいはアイデアを出してという仕組みを作っていく。

・資料3の連携の目的のところと社会的課題の共有というところが、とても大事かと思う。ただ数を増やすことを目的にするのではなく、新宿を社会的に共有していくとか、貢献していくとか、そういうところをはっきりさせていかないと、ただ数が、これだけ

人が来たからいいだろうということになり、新宿の持つ文化の奥深さとか、そういう部分が伝わらなくなると嫌だなというのが1つ。

- ・今、文化施設に人が行くということを前提に話が情報発信とかになっているが、子どもや高齢者などなかなか行けない人も区内にたくさんいるので、アウトリーチ的な形とか、学芸員の人が学校に行って、中学校だと職場体験とかもあるので、仕事の話をするとか、小学生に、模倣の絵を持って行って、そこで細かくお話をするとか。

- ・学校も今すごく忙しくなっていて、なかなかその館に行って、お話を聞いてという、その往復の時間もとれないという状況があるので、いろいろな形で子どもたちや高齢者が、文化にも触れられるような環境を作っていけたらいいと思った。

- ・新宿御苑の話で、一昨年ぐらいからか、夜間に、ライトアップだけではなくて、光で遊ぶみたいな、新宿御苑の中をいろいろなアーティストが光でアートを作った中を回遊するようなのか、音楽、アートとか、今、いろいろなタイアップをしてきていて、やはり新宿御苑も文化資産だなと。そういう活動ができれば。

- ・先のウィーン・フィルのイベントでも、たくさんの方が来られるから、そことタイアップして情報発信をできるといいと思った。

- ・東京駅のようにプロジェクション・マッピングをやる。人が集まる場所が必要で、あまり邪魔になっても困るが。

- ・文学館は文学に関心ある人たち、美術館は美術に関心がある人たち。駅というのは、ありとあらゆる人が集まるので、それをうまくまとめていく。そうすると、情報が広がるということがあるから、連携も、異分野間の連携と、全く関係ない人がうまくつながる。場所を利用するか交通網を利用するか、あるいはそういうイベントを利用するというようなことは考えられる。

- ・新宿駅の話が出たが、駅は人が集まる。駅はあちこちの街道につながる。甲州街道につながる、あるいは下の青梅街道。ルミネなどの駅ビルがある。南口はJRが事故で止まるというと、マスメディアはあそこを映す。だから、街道と非常につながりやすい。駅は、いろいろなものが集まる場所であるから、利用できるかどうか、さまざまなアイデアを。

- ・連携の目的は何かということも、もう少しきっちり。探りながらでも構わないが、まずは大事なのではないかというのが第1点。その連携をするに当たり何が大事かという、やはりビジュアルに訴えることがすごく大事なのではないか。

- ・今、新宿も本当に広がり、元々は東口がメインだったものが、西口も増え、東南口も増えて、もう代々木や東新宿までが新宿になっているぐらい、広くなった。今自分はどこにいるのかわからなくなることがとても多いと思うので、何かしからの建物だったり、大事なところに、1つ大きな看板のようなものがあり、今はこういうところにいる、このエリアではこういうことが楽しめてというのがあると、すごくわかりやすいのではないか。

- ・池袋はすごくいろいろとやっていて、駅を中心に、元々あった芸術劇場、それからブリリア、いろいろな公園とかをつないでいたりするが、公園にも大きな地図があり、今、このエリアにいて、こういうことなのですよということが書いてあって。なるほど、こういうことで、こっちに行ったらあれで、さっき行った所はここなのだということが

すごくわかりやすかった。そういうものを使うのは、とても大事なのではないかと思った。

- もう1点、検索のシステムに期待している。港区もミュージアムネットワークを作っている。港区立郷土歴史館を中心に行っていて、学芸員などがツイッターでつぶやいたりして、すごく楽しい。歴史的な文化なのだが、港区はやはり先進的なものもあるので、それをうまくつなげていて、よくできていると思ったので、二番煎じになってはいけませんが、そうしてくれるといい。

- それから、夜の何かしら。美術館も多少遅くなってきているとは思いますが、やはりインバウンドの方が、一番困るというか、足りないと思っているのは、夜のイベントや、夜のことだとアンケートに挙がっていて。幸い、新宿は結構夜遅くまでいろいろなことをやっている。ロボットレストランなどはインバウンドの方がいらして。ただ、そういうものがあまり日本にはなくて、それが少しもったいないということをインバウンドの方もおっしゃっているので、夜というのは、いろいろなことがあって大変なのだと思うが、人がかかわらなくてもできることもあるだろうし、何かしらのことができると、もっと広がりが出るのではないか。

- その問題は、新宿区に限らずいろいろな文化施設である。美術館の場合、5時で閉館では、普通のお勤めだと見られない。5時で終わって、夕食を7時ごろからという。フランスでは、5時から7時というのは、適度な遊びかアペリティフの時間で、そこまでいければというのだが、美術館はまたいろいろなところがあるから、お役所的で5時から5時半には閉めてしまうが、文化施設だから少し延長してもらおうとか。

- 歴史博物館は5時半。

- 損保ジャパン日本興亜美術館は6時で。以前、金曜日とかやってみたが、期待された集客がない。トライアルで毎年やり方を変えて夜間延長しているが。

- 毎金曜とか木曜とかではなく、展覧会の場合に、最後の1週間を続けて延長すると、見逃したくない人たちが来るので、マーケットと対話しながら経験を積み、金曜日とか水曜日でなくてはいけないというのは全くないと思う。

- それぞれがそのマーケットに応じてやり方を変えていくということもあり得る。だから、延長の仕方もある考え方が。特に展覧会の場合は、最後、集中して人が来るではないか。

- 美術館はそうでなくて、常設の場合には、いつでも来られるといいというようなことを。夜間開館も、ルーブルでも、それから上野でも。最初は金曜日やって、誰も来ない。すると、ルーブルの場合、2年か3年ぐらいついてから、やたらに来るようになった。つまり、常設の場合には、イベントと違うから、どのくらい周知されたかがわからない。展覧会だといつまでの期間。そうではなくて、いつでも行けると。しかし、夜行けないということ、金曜日に行けるのかとか。それが周知されるまでには、時間がかかるようだ。

- 海外の著名な美術館のように、収蔵品をメインとして企画展をしない方法と、企画展ばかりで回す方法は、全くモデルが違う考え方。柔軟に考えていくということで。

- 日本の美術館は両方ある。今度、ゴッホの展覧会がある。ゴッホでバツと入ったけれども、普段もゴッホがある。見たいという人が当然いる。そうすると、もうふらっと来て、とにかくあそこで見られればいいということがあり得る。その辺を、やり方と、そ

れを情報としていろいろ知らせる必要があるという問題がかなり大きい。

- ・特に歴史物などは、イベントではなくて歴史的なものを常設ですっと見せるという。しかも夜まであいているというような。それを周囲のレストランや何かと連携させれば。中村屋サロン美術館は割合遅くまでやっていて、逆に食堂の方に直結するから、割に人は来ると。その辺をうまく連携を考えるということではできるのかも。

- ・資料3の企画全体のところを中心に。連帯する分野とか、連帯するには目的と手段とがあって、目的は新宿区の文化振興ということで、その新宿にどういう文化があるかということ発信する必要がある。その情報を強化して推進力となるのは、関係を持つ者が連帯することだろうと思う。

- ・情報発信するには、何かまとめるような、プロデュースする人が必要ではないかという意見が出てきたが、現実として、そういう専門家を雇うことは金銭的に無理だろうと、制限がある。すると、現在ある文化観光課や美術館の学芸員とか、そういう人たちがまず、こういう新宿の持っている大きな目的を自分たちの仕事の範囲だけではなくて、そういう分野をいつも自分たちが担当しているという自覚というのか、そういうものを持ってもらうことが必要ではないか。そのときは、手段としてその分野の連帯があるだろうと思うから、ぜひ学芸員とか、同じようなことをやっている人たちの連帯をまず具体的に進める必要があるのでは。

- ・来年はオリンピックのために何か大きな霨がかかっているみたいで、いろいろな企画をするとき、その先に進めない。そこで、ここから考えるのは2021年や22年のことであって、オリンピックがどういう状況を新宿にもたらすのかということが、少しわからないというか。

- ・駅もそうだが、観光地は、観光公害というのが発生する。とにかく集まりすぎるといふ。そういうのは、終わってみないと、少し正常化しないと、方向性が出しにくいのではないかという懸念を持っている。

- ・情報発信に対しては、対象をどこにするのか、対象をいつも考えている必要があり、新宿の場合は特に来訪者が多くて、区民が少しおろそかというか。

- ・住んでいる方と、情報が同じではないのかという気が。そして、来訪者も外国の方と、また、近郊の方が来るのと、他府県の遠いところから来るのと、また対応が違うのだろうと、そういうことを頭の中に入れて、情報発信を考えなくてはならないかと。とにかく今ある、関係する分野の人たちが連帯することだろう。

- ・情報発信の場は、インスタ映えするような。私はスマホを使っていないので、言ばかり聞かれるので、これは少し用心したほうがいいのではないか。それから、新宿シンちゃんをもっと活用すると。

- ・それぞれで出すとか。つまり来訪者に対するスポット、場所の問題、あそこに行けばわかるとか。森美術館は、わかりにくい場所だが、クモの所で待ち合わせてからというようなことを。新宿シンちゃんの話はどうか。それから、ゴジラを出すとか。

- ・（事務局）ゴジラについては、1回何十万という金額がかかる。今、新宿区の無料Wi-Fiに接続すると、各年代のゴジラ5種が3Dやフォトフレームで表示されるような取組みも行っている。全5体をコンプリートすると、隠しキャラでキングギドラとメ

カゴジラが出るというような、少し遊び心も。

- 新宿シンちゃんは各イベントに出演したり。以前は、ふれあいフェスタでと、いろいろな活用を行っている。今後、そういうお話があったら、いろいろなイベントで活用ができるのではないかな。

- 今のスマホ世代はいいが、スマホでない世代には恒久設置のモニュメントみたいなものが大切。新宿南口あるいは中央口に設置して、目印になるといい。スマホで位置を探すのではなく、とにかく何かがあるというのが1つ、外から来た人への目印になる。

(小泉文化観光課長) 新宿クリエイターズ・フェスタで、以前、新宿センタービルの公開空地に、パブリックアート「Hand of Peace」を設置した。

- 西口には「LOVE」のモニュメントが。

- (事務局) 少し離れているが、ラブ・アンド・ピースというようなことを。

- 「LOVE」は、駅前から割に行きやすい。

- 「LOVE」があって、センタービルに「Peace」が。「LOVE」は目立つが、「Peace」はあまり目立たない。自撮りをする方を見たことない。通りから見えないから、わからない。

- (事務局) 今後も、パブリックアートはやる予定がある。設置場所とか、いろいろ模索している。

- 目印になるように。待合せ場所になるような。「LOVE」はインディアナの作品。特に外国から来た方は、そういうもので。住んでいる人でも、地元の人以外はわからないと思う。確かに来訪者の多い区だから。

- あの通りは、「LOVE」があって、住友のアトリウムができて、新宿中央公園につながるというので、一帯が大分変わってくると思う。

- わかりやすくなる。来年はオリンピックでももちろん大変。ただ、オリ・パラは9月6日まで。逆に、その後は、ある。だから、美術館も8月中は閉めるとかいうところもある。人もいっぱい来るが、美術館には来ないだろうということもあるし、逆に、その前と後はどうするか。逆に文化のイベントはない。フィールドミュージアムはどうだったか。

- フィールドミュージアムは通常どおりの、期間は延ばして。

- (事務局) 予定どおり7月から。

- 通常の場合と違ったお客さんがいろいろ来ると思う。その辺と、オリ・パラのような特別イベント以外の、大事なお客さんが来る時以外に、どうするかということで、学

芸員同士の取組みの仕組みを考えたらいいかもしれない。美術館、博物館、文学館などの学芸員の集まりを考える。あるいは、さらにパフォーミングアーツ、音楽会をやって、そのプロデュースを。うまく組み合わせる。

- ・調査結果を、次回には示せる。多分今日の議論とつながるような結果が出るのではないか。2020年が見えていないというところがある。ただ、西口だけは見えているような気がして。高層ビル群の連絡協議会や、そういう連携があるので、損保ジャパンや、小田急が中央公園で映画上映と、いろいろなことをやっている。だから、来年度は西口に焦点を当て、いろいろなことをやるというのは1つの手だろう。区及びフィールドミュージアムも、そういうものに焦点を当てて打ち出していくというような。

- ・協議というか、枠組みはやっていないが、少なくとも新宿駅を中心として、新宿になかったエリアというのか、文化に華を添える。それをオフィスであったエリアを、少しそういうところに変えていこうということ。

- ・モード学園のところは、ファッション大学か。何かをやった。

- ・あのエリアの特徴は、法令で公開空地の確保が定められているので、スペースがある。それが一番の使いどころか。

- ・西口がいい連携の事例になる。調査でも個別の連携は結構やっている。それと調査を見ていると、キュレーター間の連携みたいなことをやりたいという意欲は結構出てきているようだ。フィールドミュージアムを軸に、100団体もあるので、細かいいろいろな実験をやれるような構造にしていく。

- ・例えば、フィールドミュージアムは、新宿区の事業という形でやっているが、そろそろ独立して、中から発信が出てくるような時期に来ているのかなと。これだけ事業でやられてきたので、観光協会との連携もうまくいったり、個別の地域の中のいろいろな、西口は西口で勝手にやっているとか、そういういろいろなつながりが出てくるかなというのと。多分、全体でSNSを使った連携発信の構造はつくれるのではないかとということもあるので、そういうことを少し、2020年は西口に焦点を当てて、2020年以後を目指して、フィールドミュージアムを活性化して、個々の施設の発信力を強化していくみたいな連携と発信。横のつながりを強化していくような動きをつくると、おもしろいのかなと。

- ・たしか新宿御苑に全国の国立公園を情報発信できるスポットみたいなのを作ろうという話があり、環境省自体も国立公園でのイベントを積極的に今後展開していこうという方向性は持っている。そこら辺でいうと、舞台をつくるとか、国立公園をそういうイベントで利用しようという国としての方向性は持っているみたいなので。あそこでいろいろなものができるといいかなと。西口と新宿御苑が割と。国はたしか、芸団協のイベントも国立公園でやったりという話もあったりするので、ぜひ調べていただければと。

- ・新宿駅が10年計画で新しくなると。たしか空中通路で西と東がつながる。

- ・そうすると、御苑に近い。

- ・だから、動線が。うまく行けると思う。

- ・来年が、本当に1つの転機になると。

- ・上野の山もそう。上野の真ん中の噴水のあるところに、来年は、何か野外音楽堂みたいなものが、オリンピックのために大きいのをつくって、それをどう恒久化するか。あ

そこは周りにいろいろな施設がある。博物館、科学博物館、芸大もあるし、それぞれ所属は違うが、何となく文化ゾーンがあって、そしてアメ横が下にある、商店街も。それをどうやってつなげるかという。オリンピックが1つの契機になり得る。

- ・詳しくは存じ上げないが、西口ロータリーの目の前の敷地、旧安田生命があったところも、全部再開発で、文化施設も何か作るという計画がリリースされている。だから西口でいったら、多分そういう方向に図らずも向いていくのだろうと。

- ・渋谷は今やっていて、池袋もやって、新宿の西口も再開発を。

- ・東京メトロと小田急で超高層ビルを。

- ・御苑もあるが、中央公園でコンサートとかある。

- ・中央公園にカフェができたり。夜間の野外映画とか、すごい文化施設になる。

- ・開発が進んで、標識マップが至るところにあるといいと思う。

- ・『四谷怪談』と『耳なし芳一』をやったのか。松江で小泉八雲は重要。記念館があるし、いろいろイベントもある。小泉八雲は、国際交流としても大きな問題。漱石も八雲の後に行っているの、熊本でも、松江でも。実は関係があるので、漱石山房記念館でやれると思う。

- ・文学でつながりがあるというようなことを。先のキュレーター間、文学の人も含めた学芸員が集まれば、そういうアイデアが出てくると思う。そういう取組みが、連携の場合に、いろいろな分野間でうまくできる。

- ・地域も、多くの地域をうまくつなげるようなことが考えられるかどうかということ。外国もちろん、国内も。

- ・連携で、問題になるのはオリ・パラがあると。もちろんオリ・パラだけではなくて、障害者、ユニバーサルデザイン、子どもの問題と。フィールドミュージアムは子どもの日をつくるとか、美術館では時々やっている、子どもの日。普段は親と行かないといけない。

- ・美術では、お行儀をよくしなさいということから始めるわけだが、子どもに美術館を開放する日を、夏休みなどに大原美術館でもやっている。それはアテンダントがいる場合。半分は、絵の案内よりも、そういう公共施設でのお行儀から、もちろん走ってはいけませんよというようなところから始まって。大原美術館はもうずっとそれをやっている。一般のお客さんの邪魔になるから、休館日に。

- ・数年前、お母さんがその日に子どもを連れてきた。子どもの日や夏休みに、チルドレンズ・アートミュージアムというのをやっている。来たお母さんが、実は20年前に子どものときに来た。学芸員たちも大変喜んだ。最初に来たときは何だかわからないで連れられて、しかし、やはり自分の子どもを連れてくる。何か残る。絵のこともよくわかっていないが、つながる。世代間のつながり。子どもというのは大事だと思う。

- ・番組、村芝居でも何でも子どものときに見たのは、中身はよくわからないけれども、何となく心に残っている気がするというようなものをうまく施設につなげていく。そうすると、もちろん芸術鑑賞とか音楽会だって、子どもが泣いたら困ることもあるわけで、逆に、子どもが騒いでもいいような日をつくるとか。

- ・損保ジャパン日本興亜美術館は、子どもは。幼稚園もやっているか。小学生は。

- ・小学生は授業として閉館日にやっている。今のは物すごく重要な視点で。

- ・幼稚園児はやっている。
- ・未来を担う次世代に対して、文化・芸術を身近なものにしていくため、今年の夏の展覧会は絵本系だったので、企画として「トークフリーウィーク」を2週間設けて、どんどん子どもを連れてきてくださいと。
- ・ある人から聞いて衝撃を受けたのだが、すごく美術館が好きだったが、子どもができたら行けなくなると。美術館に行ったら眠くなるように、わざわざ公園で遊ばせたり、そこまでして行く。
- ・トークフリーだから、おしゃべりしてもいいと。もちろんお作法は絶対に守らなくてはいけない。そうすることによって、うるさいとかアンケートでいろいろ書かれることに対しても、「トークフリーウィーク」ですからと。ポスター等で、もう宣言したと。だから、もしかすると将来は禁煙と喫煙が逆転したように、というふうになってくるかもしれない。
- ・一方、美術館に全く無関心な人たち、文化・芸術に全く無関心な人たちが75%いる中で、そういう人たちを開発していくには、やはり知っている人に連れていってもらわないと。黙って行っても何もおもしろくない。だから、そういう意味でも、子どもだけではなくて、トークフリーウィークは、ある程度そういう視野を持ってやっていく。これは美術館ならではの、音楽会だとそういうわけにいかないが。
- ・0歳からのコンサートというのがあり、赤ちゃんは泣いても騒いでもいい。
- ・そういうことにみんなで取り組んでいくというのはすごく大事なこと。
- ・その方法を考える。音楽会も、うっかり咳をすると、周りから「シーッ」とか怒られる。子どもなんか連れていけない。
- ・もう宣言してしまう、トークフリーだと。
- ・習慣にならないといけない。親に美術館に連れていかれたという。行ったことがあると、大きくなって行くようになるし。行ったことがなければ、どう行ったらいいかわからない。コンサートもそう。
- ・美術館なら、そのための日をつくるとか。その日は少しうるさいかもしれないが、わかっただけでも可能だと思う。
- ・そういうことも、フィールドミュージアムの施設群が協力して、日を統一して、連携企画でやるとか。
- ・ファミリーが来るから、いろいろなつながりができる。複数で来る、必ず。
- ・子どもがいると嫌でも親が来る。入場者がふえる。
- ・子どもをゴッホ展に連れて行って、ずっと静かに見ていなければならぬ環境に耐えてくれたが、「二度と行かないから」と言われて。
- ・次世代にそういう思いをさせたら、それはマイナスにしかならない。
- ・子どもは大事だと思う。その辺は、やり方をいろいろ考えるべきと思う。
- ・夏に美術館に行った。すごく盛況で。小さい子から年配の方までいろいろな世代の方がいらして。身近な作家で、若い方からご年配の方まで、それぞれの年代がかかわってきた絵本がたくさんあり、とても楽しそうにしていたのがすごく印象に残っている。
- ・普通的美術展とは違う雰囲気。
- ・イベントあるいはそのほかのものを楽しむ、世代間の交流というのは大事。それは、

要するに文化継続なので。区が高齢者のための入浴券をくれる。公衆浴場は子どもが騒いだり何かするのもおもしろいが、老人ばかりいて。もちろんイベントにもよるが、いろいろな世代間が交わってというのは、文化的に大変大事なことだと思う。文化をつなげる、その仕組みを考えなければいけない。

- ・仕組みと企画を考えないといけない。
- ・それは重要な問題。その辺は知恵の絞りどころで。今度は区の方が何か考える必要があらうかと思う。
- ・今、学校でのチラシ配布も有料のものはできなかつたりする。区の後援名義はいただけるが、教育委員会の方が、なかなか。許可すると至るところから来るので、その量、情報が多過ぎるということで、どこかで選別しなければいけないということで、減らすということで、全校配布が今、難しくなっている。私たちも、つながった学校には届けさせていただいているが、そうでない学校もあるので、情報の格差は大きいと思う。
- ・それこそ親が子どものときに文化体験していなかったら、子に見せようとも思わないので、今、大学生とか高校生とかで、文化、そういうお芝居を見たりとか、音楽を聞いたりなんていうことは、本当にごく一部。なので、学校も、都立などは連れていってこれたりしているが、そういう環境でやらないと、自分から触れる機会がなかなかなくなって、私も危惧している。
- ・美術館は入館料とか高い。コンサートも、本当にいいコンサートになると1万円以上するのが多々ある。その壁というのもあり、無関心な方は無料とか大きく割引されているものとかでないと、なかなか。
- ・価値があるということがわからない。区民招待を増やすとか、そういう手を打たない限りは、なかなか難しいと思う。
- ・実際に招待で新宿文化センターに行くと、年配の方もたくさん来るが、関心がないのか、寝ている。本当に関心を持たれる方もいるだろうし、何かそういった手立てをやらなければいけないと思う。
- ・美術館は、子どもとかは無料になっているはず、公共のものは。
- ・子どもは次世代を育てなくてははいけないということで、今年から高校生以下は無料にした。だから夏、高校生もいっぱい来た。
- ・高校へ行っていない若い、中学で就職した人たちも考えなくてははいけない。それから学校の場合、逆に、教育委員会がいろいろ面倒な手続をして、バスを出してくれる。それはいろいろ話し合いでできると思う。美術館がイベントをするとお金がかかるから、入場料が高くなる。これも必要悪で、安いのが一番いいが。また、外国から作品を借りてくるとなると、それなりの費用はかかる。
- ・美術館はなかなかそれだけのお金がないから、新聞社などメディアの協力を得る。すると、常設展は無料でできるが、特別展は、せいぜい割引だとか、その辺の方法は特別展のやり方でまた考えないといけない。
- ・大原美術館は私立だが、公益でもって子どもや高校生までは無料。かつては、シニアは無料というのがあったが、シニアはお金があるそうだからやめた。もっと言えば、博物館法では、本来、美術館、博物館は全て無料なはずで、イギリスは全部無料。有料にしようとしたら市民の大反対があった。アメリカは、建て前は無料だが、入るときに寄

付。それは嫌でも払うような形がある。しかし、それもやり方。お国柄もあると思うが。

- 教育委員会は有料のは配ってくれないのか。区によって違うのでしょうか。
- 区によって違う。今、新宿区の共催の事業でも、だめ。
- (事務局) 詳しくは把握していない。最終的には校長判断で、各校。
- かなりの数が来ているというのは、聞いている。有料だと多分、宣伝みたいになってしまうので困るといふのと、働き方改革で、そもそも配布物が多くて学校が大変だから、吟味してくれといふのが内部からも相当あって。

- 本当に先生も大変。
- 芸団協が東京都とやっているキッズ伝統芸能、私の自治体では家庭には学校経由で配布された。有料でもできない話はないだろうなといふのと。

- (事務局) 校長判断。

- 例えば、子どもの日みたいなのを設定して、そのチラシを全校配布してくれるとか、フィールドミュージアムがやる、各文化施設がとか、そういうのなら大義が立つのではないか。そういう工夫を何かやるとかできないのか。フィールドミュージアム参加団体がやる文化事業、特定で。

- 連携して1個だけではなく、いろいろなフィールドミュージアムでやっている、その時期やっているもののお知らせを出すとかは、いいかもしれない。

- 子どもとは関係なしに、やはりトークフリーの日があった方がいいとか。うるさいといふクレームが出てくる。

- 来年以降、子どもと関係なく、そういう週を設けようと思っている。美術館デビューする大人たちで、誰かに連れてきてもらったとき、説明を聞かないとわからない。黙って、ずっと見て、出た後にこうですと言われても、おもしろくもかゆくもない。そういうマーケットを開拓していくため、試しにトークフリーデーというのは、別に子どもに限った話ではない。それとペアチケットを組んでプロモーションみたいなとか。

- やっぱりわかっている人と一緒にといふ。

- そう。わかっている人に連れていってもらいたいといふ。

- スマホで撮るのでも、今の美術館はしょうがないから、自撮りをすると。絵も見ないで自分ばかり撮っている。危なくて仕方がない。自撮りをしてもいいが、邪魔にならないように、絵は大事してほしいといふことは、やはり言ってもらわないと困る。

- 新宿フィールドミュージアムとの連携で、新宿区民感謝デーみたいなものを、ある特定の日に統一して、その日は文化施設を、区営の文化施設を無料にするとか。それだと学校にもいろいろまきやすいし、そういう日が1日あっても。うちはかつて10月1日を感謝デーで無料にしていた。都民の日だからではない、たまたま創業記念日だった。それが都民の日と重なったので、無料にするとすごく来る。やはり毎年その日だといふのはわかっている。

- そう。無料の日をつくと来るといふのは。

- ・毎年この日は無料だとわかっているとすごく来るが、いろいろあって、やめたが。いろいろな施設が、この日は無料になるというのは1つの方法。
- ・文化の日に無料にするというのは、美術館はやったし、確かにドッと来る。
- ・10月1日だと、都民の日で、みんな休み。学校は。やっていないところ、休みではないところもあるが。
- ・今は新宿区も厳しくて授業数を。
- ・だから、いつにするかは別にして、そういうのを考えていくというのは。
- ・歴史博物館は少し離れているから行きにくいだが、いろいろおもしろいことをやっている。物もある。それぞれ無料の日をつくと、ドッと人が来て。

- ・（事務局）子どもは夏休みと冬休みは無料。

- ・大人も。つまり全員無料の日というのを1日つくと。
- ・開館記念日とか、何か新宿の、何だろう。新宿区ができた3月15日。
- ・毎年その日と決めると、周知されてくる。
- ・それは非常にいい。わかっていると、お客さんが来たときに、その日ではなくてもご案内できるのではないかというようなことができるので、やはりなれていないとまずい。全く新しいところは、なかなかほかの人も。
- ・美術館はよく行くが、平日は年配の方が多く、いつも混んでいる。だから、シニア層が孫と来るような取組みがあるといい。やはり友人同士で来るので、夏休みでも、小さい子や、祖父母プラス小さい子というのは、美術館ではあまり見かけない。家族は見かけるが。世代を超えて来られるような、そういうシステムがいろいろなところにあるといいと思う。
- ・託児場を設けた美術館もある。美術館はお金がかかるし大変だが、区立だったらできるとか。人手がかかるという問題があるが。でも、障害者のためにいろいろ取組みが進んできたから、それと同じ考えだと思う。すぐにどうこうというのではなく、文化振興としては重要な問題になっている。
- ・音楽もそうだと思うし、美術館もそう。うちは、夏は基本的にはファミリーをターゲットにした。今指摘された組合せでは来ない。おばあちゃんは楽しくても、子どもはつまらない。そういう意味では、音楽も同じと思う
- ・こういう人たちを集めたいという目的があると、そのマーケティングに従って、合う企画を用意すると、そういう人たちが来やすくなる。目的とやることが一体化していくことが、すごく大事。フィールドミュージアムでも、そういうファミリー企画みたいなものを連携して盛り込んでいくと、その日は街中にファミリーが、ということが起こり得るかもしれない。
- ・オリンピックがあるから、21年から7月24日をその日にするとか。
- ・夏休みは、絶好の機会。
- ・漱石山房記念館では漱石の散歩道というマップを作っているが、例えば新宿歴史博物館は、近くにおもちゃ美術館があり、結構ギャラリーもあったりする。新宿歴史博物館や文化センターが周辺のマップを作るという話はないのか。

- ・（事務局）区では5地区、6言語で区内の観光マップを作っている。漱石山房記念館は住宅地にあるため周りに何があるかわからないという声もあり、漱石ゆかりの地でもあるので、漱石ゆかりの場所を特別にマップとしてまとめた。

- ・先ほどの区立文化施設だと、文化センター、漱石山房記念館、歴史博物館、林芙美子記念館、コスミックスポーツセンターなどを会場にして4月上旬にレガスまつりが開催される。その際、無料で、各施設を結ぶ巡回バスを開催当日だけだが運行している。

- ・委員の皆さんから今回も新しいアイデア、大変重要な問題が提起された。

### 3 事務連絡等

次回開催日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

### 4 閉会

会長の挨拶をもって、午後12時に閉会した。